

清水町 DX 推進方針

2026.6

はじめに

清水町DX推進方針は、多様化する住民ニーズへの対応や持続可能な行政経営を実現するため、デジタルを活用したDX推進における方針や体制等を示すものです。

なお、DX推進の具体的取組を定めた実施手順は、必要に応じて別に策定します。

コンセプト

役場をリデザイン、デジタルで「できない」を「できる」に

利便性向上や業務効率化は手段の最適化でしかありません。

DXの真の目的は「アナログをデジタルに置き換える」ことではなく、
行政のあり方そのものをリデザイン（再定義）することにあります。

重点項目

手続きのデジタル化

体験のリデザイン

手続きのコストから解放し、人生の質を高める
時間を提供できる環境を整える

徹底した AI 活用

知恵のリデザイン

単なる自動化・効率化ではなく、知恵を拡張し、
高度な課題設定に集中できる環境を整える

データ基盤の整備

記憶のリデザイン

各課のデータをゼロベースで見直し、組織全体で
知恵を共有できる環境を整える

セキュリティ対策

信頼のリデザイン

状況にあわせた柔軟な「守り」を固め、安心して
デジタルを使える「攻め」の環境を整える

行動指針

意識の変革

デジタルは目的ではなく手段

デジタル化をゴールとせず、その先の住民生活や働き方など、誰のために何を変えるかを優先する

問いの質が答えの質を決める

質の高いデータを質の高い問いで引き出すことで成果を最大化する

前例は自ら創る

前例をなぞるのではなく、小さな試行と素早い修正を繰り返し、自ら次の前例になる

組織の変革

新しいスタンダードを創る

これまでの常識にとらわれず、新しい技術を柔軟に取り入れ、常に組織をアップデートする

引き算で再設計

今までのやり方でデジタル化するのではなく、デジタルならどうするかで再設計する

データに基づく対話を徹底

声の大きさや経験則ではなく、客観的なデータに基づいて議論し決定する

自己の変革

目的 (Why) から考える

何をするか (作業) の前になぜやるか (目的) を突き詰める

ゼロベースで考える

過去の成功体験や古い慣習を捨て新しい時代のやり方を受け入れる

使う人の視点で考える

使う人にとってわかりやすいか、使いやすいかを常に問い直す

推進体制

